

マスコミで見るURCの今—最近1ヶ月間の情報を中心に—

- ◎新聞 記事は資料室で読めます。
- 2011.2.8 朝日新聞 朝刊 29p
3月12日全線開通 アジア都市研 韓国側と協定 大田市・発展研究院
- 2011.2.8 西日本新聞 朝刊 20p
福岡アジア都市研究所 韓国・大田研究院と協定—高速鉄道などテーマに連携
- 2011.2.8 毎日新聞 朝刊 23p
福岡アジア都市研究所 交通問題などを共同研究 韓国・大田発展研究院と交流協定
- 2011.2.8 大田日報 12p
대전 ‘최佳 살기 좋은 도시로’ 대전발전研-日・후쿠오카 아시아 도시研 MOU-
- 2011.2.8 産経新聞 22p
대전연-日 후쿠오카 아시아 도시 연구소 최 고 도시 건설 ‘맞손’
- 2011.2.8 産経투데이 22p
대전발전研-日 후쿠오카 아시아 도시 연구 교류협정-
- 2011.2.8 産経新聞 21p
대전-후쿠오카 도시 문제 해결 머리 맞댔다
- 2011.2.8 産経毎日 3p
대전발전 연구원 해외 위상을 높인다
- 2011.2.8 産経新聞 2p
대전발전 연구원, 해외 위상 높인다-일본 후쿠오카 도시 연구소와 연구 교류협정 체결-
- 2011.2.4 毎日新聞 朝刊 23p 地域開発など研究 URC7日に韓国・大田市と交流協定
- 2011.2.3 西日本新聞 朝刊 30p
日韓でまちづくり研究 福岡市と大田市の研究機関交流協定 高速鉄道活用探る
- 2011.2.2 読売新聞 朝刊 25p 福岡市と大田市(韓国)の研究所が協定締結へ
- 2011.2.1 朝日新聞 夕刊 7p 韓国・大田市と福岡市研究交流
- 2011.2.1 日本経済新聞 夕刊 15p 韓国研究機関と交流協定締結へ 福岡アジア都市研
- 2011.1.21 西日本新聞 16p
第5回アジア都市ジャーナリスト会議 アジア太平洋都市サミットの北九州市での実務者会議で初めて開催したもの

◎雑誌

- 2011.1.31 フォーラム福岡 Vol. 35 01p
「ボーダーレスな時代の産業政策」を当研究所OB後藤太一元主任研究員が執筆
- 2011.1.31 フォーラム福岡 Vol. 35 21~22p
「福岡に集積する創造産業を生かした福岡／九州の取り組みへ」の記事の中で、岡田允特別研究員が「福岡の知識職業従事者の割合は東京に次ぐ。」とコメント 山下永子主任研究員が専修学校や各種学校への行政の支援不足等を指摘
- 2011.1.31 フォーラム福岡 Vol. 35 44~45p
「もやもやからイメージへ デモンストレーション型の表現活動で市場を超える」を市民研究員OB藤浩志さんが語る
- 2011.1.1 九州マーケティング・アイズ Vol. 56 14~15p
アジアと九州の今「ランキングワールド〜アジアナンバー1都市になるということ〜」は当研究所OB山本公平元交流推進係長の執筆 内容に「福岡地域における知識創造と知識経済に関する基礎調査研究報告」が引用される。

◎テレビ

- 2011.2.7 NHKテレビ NHK福岡のニュース 12:00~ アジア都市研 韓国と交流協定
- 2011.2.6 NHKテレビ NHK福岡のニュース 12:00~ アジア都市研と交流協定締結のため、李昶基大田発展研究院院長が来福

◎ネットニュース

2011.2.9 おはよう大徳!

大田発展研と福岡アジア都市研が研究交流協定を締結

所員雑感 「JR博多シティ(新博多駅ビル)」開業

3月3日といえば桃の節句ですが、こと今年の福岡では「JR博多シティ(新博多駅ビル)」開業日として認知されているのではないのでしょうか? 様々な店舗やサービスに期待を寄せる方も多いと思いますが、ここでは私がJR博多シティ開業後に期待している、2つの《変化》について記したいと思います。

【1. アートの新たな拠点になれるか?】

JR博多シティは、日本画家・千住博氏プロデュースのタイル画アートが各所を彩り、現代アートのイベント連携「Kyushu Art Gate」プロジェクトが始まるなど、アートを意識した場になります。「瀬戸内国際芸術祭2010」等、アートとまちづくりのコラボ成功例も増えてつづりますが、博多からアートを通じた新価値がどう発信され、また、アートツーリズムの拠点へとどう繋がっていくのか、大変楽しみです。



画像提供: JR九州(2点とも)

【2. 駅周辺と福岡はどう変わる?】

今回の開業は6千人規模の従業者を有する“一つの町”の出現、単純計算で博多区人口の約3割増を意味しますから、その受け皿となる多様な商業・サービスも周辺に現れるのではないのでしょうか? JR博多シティとそれらとの相乗効果で地区全体の魅力が増し、ひいては福岡都心の人や経済、文化の動きを促す“プラスの連鎖”が実際どうなるのか、目が離せません。また、大博通り沿いには、寺社や町屋の歴史的街並み、さらにその先に博多湾も広がり、これらを楽しく回遊できれば、博多・福岡のファン増に繋がります。私達もまずは現地を訪れてその「良さ」や「変化」を体験し、国内外のお客さまを温かいホスピタリティと気持ちよいマナーでお迎えできるようにしたいですね。最後になりましたが、資料室では博多駅地区の企画展を開催中です。また、次号『RU+』も「博多駅と周辺のまちづくり」を特集予定です。こちらにもどうぞご期待下さい。(主任研究員 白浜 康二)